抗議メッセージ

イスラエルはガザ住民への無法・無差別攻撃を即時中止し、撤退を！
即時停戦を求めます。

イスラエル軍によるパレスチナ自治区ガザへの大規模な空爆と地上侵攻が行われ、ガザ市民の犠牲が拡大しつづけています。パレスチナ自治区保健当局は１１月１７日、ガザでの死者が 12,000 人を超えたと発表しました。うち 5,000 人が子どもだと伝えられています。11 月 18 日の国連総会の非公式会合で、ガザ北部で機能している病院は一つだけとなり、２４のうち１８の病院が閉鎖されたと報告されています。

イスラエルはイスラム組織ハマスによる攻撃への「自衛」と主張しています。しかしそれならば長年にわたるイスラエルによる軍事占領、たびたびおこなわれた軍事攻撃に対するパレスチナ側の反撃も「自衛」であると言えます。

しかし自衛といえども一般市民を対象とした攻撃や人質は許されないことです。さらにイスラエル軍がいま、ガザ地区に対して行っていることは、２２０万人のすべての住民を対象に、水、電気、食料、燃料など生活に必要な資源を遮断し、攻撃対象とする無差別攻撃にほかなりません。病院すらたびたび襲うような軍事攻撃のどこか自衛なのでしょうか？明らかなるジェノサイドであり戦争犯罪です。それは国際人道法をあらゆる面で踏みにじる断じて許されない行為です。

また、イスラエル閣僚からは原爆投下も「一つの選択肢」との発言が報じられましたが、原爆を体験した被爆者として到底許されるものではなく、強く抗議するものです。

１０月２８日、国連総会は交戦当事者に対しただちに、持続的な人道休戦に入るよう求める決議を圧倒的多数の賛成で採択しました。決議は、ハマスの人質釈放も求めています。また１１月１５日には、国連安全保障理事会は緊急会合が開かれ、イスラエルとイスラム組織ハマス双方に戦闘の「緊急かつ人道的な中断」を求める決議を賛成多数で採択しています。（アメリカ、イギリス、ロシアが棄権）

即時停戦は絶対に必要です。しかし国際社会には、そもそもパレスチナ分割によってこの問題を作りだした歴史的責任があり、さらにその後にそれをも無視してイスラエルが軍事占領を拡大し、無法行為を重ねてきたことを放置し、止めることができなかったことも問う必要があります。その点で国連や、日本も含む国際社会もまた当事者であるという自覚を持たなければなりません。このことを踏まえた上で、私たちは、すべての当事者が国連総会決議の休戦案を受け入れることを求め、イスラエルに対してただちにガザへの攻撃の即時中止、撤退と封鎖の解除を行うことを求めます。

また、問題の根底にあるイスラエルによるパレスチナの多くの地域での不当な軍事占領をやめさせ、イスラエル、パレスチナの２つの国家が共存するパレスチナ問題の平和的解決のために行動するよう求めます。

このために平和憲法をいただく日本政府こそ、真の平和の実現のために積極的に行動することを強く訴えます。

２０２３年１１月２０日

京都原水爆被災者懇談会　世話人代表　花垣ルミ
京都「被爆二世・三世の会」　世話人代表　平　信行